



メロス通信 不定期便

大人の遊びば『ギャロス』へどうぞ！ 飛び入り大歓迎！

時間外学習サークル『ギャロス』は毎月第3木曜日17時45分より多目的室に集まり自由な交流をしています。安心できる仲間がいるフィールドです。職場の枠をこえて多職種でふれあい意見を交わすことで元気になれます。今回のメロス通信ではその場面をご紹介します。みなさんも一度参加してみませんか？



第16回Club Gyaross先輩から学ぶ、民医連・医療生協への思い 感想集

専務や常務からのお話や皆さんとの意見交換を通じて、健文会や民医連の良さを再確認することができました。地域からの求められる医療を行うことも大切だが効率性（経営など）も大切でそれぞれがそれぞれの立場で悩みながら働いていることが分かりました。みんなで悩み共感しあえるという民医連の良さを発揮できる職員になりたいと思えるようになりました。



山村専務と児玉常務がお話しして下さった内容は、私が入職したころ30年ほど前の小野田歯科の事務長だった山村専務、入職して10年目未満だった児玉常務の、何か会話する機会の中で私もお二人からさいていた事だったと過去の発言場面を思い出していました。ずいぶん前のことでしたが、今回の参加者の状況にあわせ話そうとしていると同時に当時のご自身の思いを重ねて伝えようと真剣に話しているのが伝わってきました。ありがとうございました。

専務や常務とお話することがなかったのでこういう機会があって良かったです。わからないことが沢山あって解決が難しく、ケアが全てを解決すると思ってたのに、見出したその価値が以前ほど力を持たなくなっていて、自分が受けているケアを忘れていました。それを思い出すきっかけになりました。今一度いろんなことを整理して自分のしたかったことに取り組んでいきたいと思いました。

山村専務と児玉常務から自身の経験と健文会への思いを聞くことが出来、健文会愛が深まりました。特に「いつでも、どこでも、だれでも」という言葉に惹かれ今も大事にしているというメッセージが心に残りました。私たちギャロスメンバーは仕事に対する思いや悩み、ケアについて真剣に語り合いました。世代や経験、職種を超えて、互いを思いやり、学び続けるギャロスに更に大切にしていきたいと思いました。



専務・常務から直接お話を聞ける機会はなかなかないので、とても貴重な時間でした。民医連や法人の理念について改めて知ることができ、日々の仕事の意味や働く理由を考えるきっかけになりました。心理的安全性がしっかり確保された雰囲気だったので、リラックスして意見交換することができたのも良かったです。



先日、地域福祉室メロス主催の「ギャロス」の集まりに参加させて頂きました。総勢14名の職員が参加し、「ケアの倫理」

についての論文を読み合わせして、その後、自己紹介も含めて、いろいろな角度から参加者全員の発言がありました。まず驚いたのが、集まった職員が多職種にわたり、年齢層がとにかく「若い」ということ、そして、自分達の時間を使って「学ぶ」という姿勢を垣間見ることができたということです。このような取り組みが、「世代継承」を確実にすすめる証のように感じました。

ギャロスに初めて参加して、本当に良い集まりだなと思いました。皆が同じ目線で話ができる、権威勾配などなく対等の立場で発言できるなど安心して参加できる場所であると感じました。私は、23歳の時に転職し健文会の歯科事務になりました。前職場と違い、健文会では同じ目線で話の出来る垣根のない職場でした。それが現在も引き継がれていることに感動すら覚えました。職場内で孤立せず、居場所があり、素直に話ができる仲間がいることは大変素晴らしいことです。このギャロスのような繋がりを絶やすことなく、若手の皆さんが次の世代に同じような居場所を作ってもらえればと思いました。ありがとうございました。



先日のギャロスでは専務と常務のお話を聞き、なんとかお給料を皆さんに払えるように日々経営に関することをずっと考えているというお話が心に刺さりました。若い今からの方も、仕事をしている人を見ているのが好きとか失敗が続き深いドツボにハマっているけれど、何とか抜け出そうと努力している姿を感じて自分もへこたれてはいけななと感じました。皆頑張っているんだなと発言から感じ取りこういった話を聞けるギャロスって素敵だなと感じました。

今回のギャロスには、ゲストとして児玉常務と山村専務が参加してくださりお二人の民医連に対する熱いお気持ちを聞くことができ、とても有意義な時間でした。中でも「うちにしか掛かれない患者様がいる」という言葉がとても心に残っています。地域の方にとって必要な存在であり続けるためにも、日々の業務で相手の気持ちに寄り添った対応をより一層心掛けていきたいです。



ケアと経営を結び付けて考えることができた貴重な時間となりました。一人一人の生活状況を把握し、思いやりを持って関わる健文会の良さをこれからも一人の職員として心掛けていきたいと改めて感じました。また、署名活動などの取り組みで社会への働きかけを日々続けていき、より良い地域になるように日々業務に取り組んでいきたいです。

ケアの倫理と経営を結びつけて考える機会となり、多くの気づきを得ました。職員が安心して働ける環境を整えることが、ケアを受ける人の安心にも繋がると感じました。また、ケアの提供を継続していくためには安定した経営が不可欠であり、専務や常務のお話から、先輩方がこれまで様々な課題に向き合いながら組織を支えてきた事を知りました。私もその一員であるという意識を持ち、自分にできる事を実践していきたいです。